愛よもう一度（1976）

SI C'ETEIT A RAFAIRE
IF HAD TO DO IT ALL OVER AGAIN

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 Color
時間 99分
初公開日 1977/05/21
公開情報 ＵＡ

【キャッチコピー】
ーーついに　出逢った愛の三人……
クロード・ルルーシュ＝〈男と女〉の名匠　フランシス・レイ＝夢のような主題曲　カトリーヌ・ドヌーブ＝美しく哀しく…いつも愛に生きる
映画史上最もぜいたくな顔合わせが実現した！

【解説】
　恋人の犯した殺人の現場に居合わせただけで１６年を獄中に過ごしたカトリーヌ。出獄後の彼女にはしかし大きな希望があった。それは彼女が第二の人生を賭けて、自らの身体をわざと傷つけて収容された病院で看護人を誘惑して宿した、息子シモンとの再会だった……。ドヌーヴが自らと同じ名の逞しいヒロインを演じて素晴らしく、ルルーシュ監督一流の突拍子もないストーリーの流麗な展開も快いメロドラマの快作だ。物語の発端の事件まできちんと絵にしてしまう判り易さが彼の演出の特徴であり、弱点でもあるのだが。彼女に子作りのアイデアを与える同房の囚人サラにＡ・エーメ。彼女が最初、誘惑しようとする弁護士にトリュフォー作品の常連Ｃ・デネ。いずれも持ち味を出した好演。晴れて自由の身になったカトリーヌはすぐに立場を明かさず国立孤児院に息子を訪ねる。スゴイ美人が来た、と友達と彼女のうわさ話をする１５歳のシモンはもう立派な大人。そして、獄中で自殺した恋人の母リュシェンヌを訪ねると、彼女は我が娘のようにカトリーヌをねぎらってくれ、小さな店でも開いてシモンと共に暮らそう言ってくれた。夏休み、シモンを呼び寄せての水入らずのバカンス。彼には初めて経験する家族的なふれ合いだ。少年の目にはカトリーヌは美しい年上の女。思わず唇を奪われて、ようやく彼女は、彼の母である真実を告げることができた。最初戸惑うが、母の勇気を賞賛し、その胸に飛び込む少年。やがて、懐かしいサラが照明店を営み始めたカトリーヌを訪ね、彼女も店を手伝うことに。シモンは母に自分の学校のハンサムな教師を紹介する。ラスト、互いに好意を持ったこの二人と、年の差を超え愛し合うようになったシモンとサラは４人で、アルプスの白銀の世界に遊ぶのだった……。

【クレジット】

監督	クロード・ルルーシュ	Claude Lelouch
脚本	クロード・ルルーシュ	Claude Lelouch
撮影	ジャック・ルフランソワ	
音楽	フランシス・レイ	Francis Lai
出演	カトリーヌ・ドヌーヴ	Catherine Deneuve
	アヌーク・エーメ	Anouk Aimee
	シャルル・デネ	Charles Denner
	フランシス・ユステール	Francis Huster
	ジャック・デュトロン	Jacques Dutronc

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.